

1. 達成度評価シート（年度 実績評価用）

〈評価点〉
5点：年度計画を大幅に上回って実施している
4点：年度計画を上回って実施している
3点：年度計画どおり順調に実施している
2点：年度計画を十分に実施できていない
1点：年度計画を実施できていない（未実施）

（1）年度実績評価

戦略（直接目的）				アクションプラン（具体的手段）				
中項目	内容	R3 市長評価		小項目	内容	R3 法人評価	R3 市長評価	R3 評価委員会 意見（要旨）
		評価の理由	達成度					
1	活動の基盤をなす人材及び資料等の充実並びに施設及び設備の整備	全体としては順調に運営が行われていると考えているが、難易度の高い大規模な施設整備を実施しており、その点は非常に高く評価できる。 また、調査研究活動については、引き続き、高いレベルでの研究が行われ、外部資金獲得にも繋がっていることから、計画をどおり実施できたと評価する。	3	1	博物館等資料の新たな収集	3	3	
				2	防災及び防犯を含めた博物館等資料の適切な保管及び将来への継承	3	3	
				3	博物館等資料に関する情報及び資料の収集、整理及び提供	3	3	
				4	法人の活動の中核を担う専門的な人材の安定的確保及び育成	3	3	
				5	博物館等資料並びにその保管及び公衆の観覧に関する調査研究	3	3	
				6	博物館等の運営に関する調査研究及び評価等	3	3	
				7	博物館等資料の保全及び効果的な活用のための計画的な修復	3	3	
				8	博物館等の施設として必要な機能及び快適な利用環境の確保に向けた各館の施設の計画的な整備及び改修	4	4	
				9	調査研究活動等の拡充を目指した外部資金の獲得	4	4	
				10	バリアフリー及びユニバーサルデザインに配慮した各館の施設の計画的な整備及び改修	3	3	
				合計		32	32	
2	幅広い活動及び連携を通じた博物館等の魅力の効果的な発信	コロナ禍による休館等の影響もあり、前年度より増加したものの、来館者数が目標に達しなかった点は評価としては低くならざるを得ない。しかし、科学館独自の企画展が機構として初めて全国展開したことや市立美術館・大阪中之島美術館の共同研究を行い、その成果として「井口古今堂と近代大阪」を開催したことや、「アインシュタイン展」の自然史博物館と科学館の合同開催等、各館の枠を超えた連携が出来たことは高く評価できるものであり、全体としては計画通りと評価する。	3	11	常設展における展示替え	2	2	・コロナ禍も相まって、オンライン化が進んだとのことであるので、もっと前向きな記載を行ってもよいのではないか。 ・No15について、科学館独自の企画展（南部楊一郎生誕100周年企画展）が他都市展開した点は高い評価に値する。 ・No16、17なども含め、定量的な数字の記載が可能な項目は、しっかり記載すべき。 ・ユニークベニューについては、次期計画では現地とオンラインを分けて評価項目を設けることが望ましい。
				12	自主企画による特別展等の充実による展示活動の活性化	2	2	
				13	博物館等資料並びにその保管及び公衆の観覧並びにそれらの調査研究に関する教育及び普及の事業を行うこと	3	3	
				14	多様な媒体及び手段を通じた調査研究その他の活動の成果の公開	3	3	
				15	博物館等資料の貸出し及び他の博物館等関係機関の資料の借用	3	4	
				16	各館の枠を超えた知識及び経験等の共有並びに展示及び広報等における戦略的連携	4	4	
				17	ICT等を活用した博物館等資料に関するさまざまな情報の有効利用及び博物館等資料のアーカイブ化による公開の推進	3	3	
				18	他の博物館等関係機関との相互支援及び協働を通じた相互の資源の保全及び効果的な活用	3	3	
				19	各館の建物及びその附帯設備等を有効活用した幅広い事業の実施	3	3	
				合計		26	27	
3	戦略的広報の展開	広報としては計画に基づき着実に実施されており、特に大阪中之島美術館のInstagramのフォロワー数が関西の美術館で第2位になるなど、SNS等を積極的・効果的に活用しており、全体としては計画通りと評価する。	3	20	広報の対象及び時機並びに媒体の特徴を捉えた迅速で柔軟な情報発信	3	3	・広報については、広報を担うプレス等への積極的なアプローチなど、双方向の広報が重要である。そのような取り組みを行うべき。 ・効率的・効果的な広報を行うためには機構全体としての広報も積極的に行うべき。
				21	マスメディア等への積極的な情報発信	3	3	
				22	各館の枠を超えたマーケティングの実施及びその結果に基づく広報戦略の策定	3	3	
				23	生涯学習に関する施設その他の博物館等に関連する施設及びその事業者との連携及び協働を通じた広報活動の展開	3	3	
				24	各館の職員の専門的な知識及び技能を活かした効果的な広報活動の展開	3	3	
				合計		15	15	

(1) 年度実績評価

戦略（直接目的）				アクションプラン（具体的手段）				
中項目	内容	R3 市長評価		小項目	内容	R3 法人評価	R3 市長評価	R3 評価委員会 意見（要旨）
		評価の理由	達成度					
4	ソフトの充実及び利用者の受入れ体制の整備	多言語化にも着実に取り組むとともに、鉄道事業者やホテル事業者など、様々な事業者と連携した取り組みが積極的に行われており、全体としては計画通りと評価する。	3	25	マスメディア等と連携した特別展及び企画展の誘致	3	3	
				26	さまざまな利用者の受入れ体制の充実	3	3	
				27	多言語表記等による外国人の受入れ体制の充実	3	3	
				28	芸術文化に係る団体への成果発表の機会の提供及び当該団体の活動の奨励	3	3	
				29	さまざまな事業者等と連携した観光客の獲得	3	3	
				合計		15	15	
5	周辺エリアで活動するさまざまな事業者等との連携	コロナ禍による制限や中止となる事業があったものの、近隣事業者との協力関係を維持し、出来る限り事業を実施しており、全体としては計画通りと評価する。	3	30	各館の近隣の施設及び周辺エリアで活動するさまざまな事業者等との連携による広報及び誘客	3	3	
				31	各館の近隣の施設及び周辺エリアで活動するさまざまな事業者等と協働して行うイベントの企画及び実施	3	3	
				合計		6	6	
6	民間企業等との協働等	大阪歴史博物館でオンラインショップを開設するなど、新たな取り組みを実施するとともに、引き続き魅力的なミュージアムグッズの開発等も民間事業者と連携して行っており、全体としては計画通りと評価する。	3	32	各館の売店等における民間企業等と連携したサービスの充実	3	3	・No.33について、自然史博物館、大阪歴史博物館は評価できる活動を行っている。
				33	民間企業等との協働による各館の活動に関連する商品及び技術の開発	3	3	
				34	博物館等資料及び関連情報を活用した民間企業等の活動の支援	3	3	
				合計		9	9	
7	こども及び教員等への支援	一部、取組みを実施できていない館があるものの、機構全体としてはオンラインを活用するなど、計画通り取り組みを進めていると評価する。	3	35	こども向けワークシートの作成及びワークショップ等の実施	3	3	・No.35について、実施が出来ない状況であったことを理由に評価しない（「一」としている）ということは違和感がある。 市立美術館として何等かの働きかけが行われているかいないか等により評価は変わると思うが、（「1」ないしは「2」といった）評価はすべき。
				36	教員等を対象とした研修及び教材の開発に係る支援の実施	3	3	
				合計		6	6	
8	幅広い利用者への支援	オンライン開催や開催時期の見直しなどにより、学習機会の確保をおこなっている点や堅実な多言語化の取り組みを行っており、全体としては計画通りと評価する。	3	37	学生その他の専門的な知識の習得を目指す者への支援の実施	3	3	・観光客の学びという視点などが欠けているなど、利用者の多様性が考えられていない。
				38	博物館等資料並びにその保管及び公衆の観覧並びにそれらの調査研究に関する教育及び普及の事業を行うこと（再掲13）	3	3	
				39	多様な媒体及び手段を通じた調査研究その他の活動の成果の公開（再掲14）	3	3	
				40	多言語表記等による外国人の受入れ体制の充実（再掲27）	3	3	
				合計		12	12	
9	参画機会の提供	コロナ禍によりボランティア活動などが実施困難であったが、オンラインによるミーティングの場の設定や教育活動機会の提供に努めていると評価する。	3	41	ボランティア及びN P O の各館の活動への参画の促進	3	3	・No.42については各館の利用者との対話することを評価する項目であり、市立美術館や東洋陶磁美術館では年度計画に記載されていないからといって、評価しないという項目ではないはず。計画上も記載し、評価すべき事項。
				42	各館の活動に関する利用者との対話の機会及び場の設定	3	3	
				43	さまざまな人々が自らの学習成果を活用して行う教育活動の機会の提供及びその奨励	3	3	
				合計		9	9	
10	大阪中之島美術館の開館に向けて	新たな美術館の開館という非常に難易度の高いミッションであったが、美術館整備面において着実に実施し、予定通り大阪中之島美術館を開館し、コロナ禍にもかかわらず多くの観覧者を集めていることから、全体としては計画通りと評価する。	3	44-1	工事定例会や整備内容に関する協議等に積極的に参加し、情報の収集を行う(追加)	3	3	・大阪中之島美術館の開館については、高く評価できる。
				44-2	学芸員の視点が整備内容に適切に反映されるよう、大阪市に助言を行う(追加)	3	3	
				44-3	コレクション展及び企画展の開催の準備	3	3	
				45	新たな博物館等資料の収集	－	－	
				旧46	博物館等資料の公開に向けた修復及びアーカイブ化	－	－	
				46	開館記念企画展の準備	4	4	
				47	開館に向けた機運の醸成	4	4	
				48	大阪中之島美術館とともに運営するP F I 事業者の選定	－	－	
				合計		17	17	

（１）年度実績評価

戦略（直接目的）				アクションプラン（具体的手段）				
中項目	内容	R3 市長評価		小項目	内容	R3	R3	R3 評価委員会 意見（要旨）
		評価の理由	達成度			法人評価	市長評価	
11	人材の活用と育成	VRコンテンツや博物館法改正にかかる研修を行うなど、現状に必要な知識の共有が適切に図られている。また、採用には至らなかったため評価として反映できないが、障がいを持つ方に翻訳アプリを使った採用手法を実践するなどの取り組みは、今後の包括的な社会にふさわしい人材に獲得に寄与するものであると考える。	3	49	職員の能力が発揮できる組織体制の構築及び適切かつ柔軟な人員配置	3	3	・No51について、様々な努力を行ったことは理解するが、目標として人材の獲得となっており、本人からの辞退としても獲得できていないことに変わりはない。3の評価が妥当。
				50	職員のスキルアップを図るための学習機会の確保	3	3	
				51	包摂的な社会にふさわしい人材の獲得	4	3	
				52	法人の活動の中核を担う専門的な人材の安定的確保及び育成（再掲4）	3	3	
				合計		13	12	
12	評価制度の活用	昨年に引き続き、定めた事業評価制度や人事評価制度に基づき、着実に実行されていると評価する。	3	53	法人の中期計画及び年度計画における適正な目標設定及び自己評価	3	3	
				54	能力に応じた人事評価の実施	3	3	
				55	法人の適正な目標設定及び評価の基礎となる運営に関する調査研究の実施	3	3	
				56	インセンティブが適正に働く人事制度の導入	3	3	
				合計		12	12	
13	ＩＣＴの導入及び活用・民間活力の導入	各種システムも順調に稼働し、その他事項についても着実に実施されている。	3	57	財務、会計、勤怠、人事及び給与業務等におけるシステムの導入及び活用	3	3	
				58	事業効果を見極めた外部委託の推進	3	3	
				59	専門的な知識又は技能を有する民間の人材の登用	3	3	
				60	民間事業者等の外部からの意見を聴取する仕組みの導入	3	3	
				合計		12	12	
14	収入の確保	コロナ禍の状況の中でもコロナ対策戦略を策定し、収入の確保に努めた点や令和２年度に構築したオンラインによる寄附金募集なども順調に実施されている。	3	61	幅広い利用者の獲得及び法人資産の有効活用による収入の増加	3	3	
				62	各館の活動への理解と支援に基づく寄附金等の積極的な獲得	3	3	
				合計		6	6	
15	経費の節減	競争入札の実施や共同購入の実施など着実に実行されていると考える。	3	63	契約の方法、期間及び単価の見直しによる経費の縮減	3	3	
				64	共同調達による経費の縮減	3	3	
				合計		6	6	
16	環境整備	機構としての懸案事項であった「経営会議」の位置付けについて、法人業務における各館館長の執行責任を明らかにするとともに、会議の位置づけや審議事項を定めた規定を整備し、機構経営の基盤形成に寄与したことは評価できる。その他についても着実に基盤整備がなされていると評価する。	3	65	法人として内部統制に必要な規程及び体制の整備並びに法人内での周知徹底	3	3	
				66	研究者及び学芸員として必要な規程及び体制の整備並びに法人内での周知徹底	3	3	
				67	各職階及び各職域に応じた必要な権限の付与及び責任の明確化	3	3	
				68	法人の各機関への適切な権限の配分及び各機関における適切な意思形成の確保	4	4	
				69	情報共有に必要なイントラネットをはじめとするＩＣＴの活用の促進	3	3	
				70	内部監査等による定期的な内部点検及び監事による監査の確実な実施	3	3	
				合計		19	19	

（１）年度実績評価

戦略（直接目的）				アクションプラン（具体的手段）				
中項目	内容	R3 市長評価		小項目	内容	R3 法人評価	R3 市長評価	R3 評価委員会 意見（要旨）
		評価の理由	達成度					
17	重要なリスク回避のための体制の構築	在宅勤務にかかるセキュリティに関する規定整備を積極的に行ったことから、全体としては計画通りと評価する。	3	71	リスク管理体制の整備及び組織全体で取り組むべき重要なリスクの評価	3	3	
				72	ネットワークセキュリティの強化	3	3	
				合計		6	6	
18	利用者等の安全確保	新型コロナ対策もガイドラインに従い実施されている。また、その他の整備も計画的に実施されていると評価する。	3	73	利用者及び職員等の安全確保に必要な体制の整備及び各館で業務に従事する関係者への安全意識の周知徹底	3	3	
				74	博物館等の施設として必要な機能及び快適な利用環境の確保に向けた各館の施設の計画的な整備及び改修（再掲8）	3	3	
				75	バリアフリー及びユニバーサルデザインに配慮した各館の施設の計画的な整備及び改修（再掲10）	3	3	
				合計		9	9	
19	環境保全の取組み	環境に配慮した取り組みは実施されおり、全体評価としては順調に推移しているということになるが、指標化を行っていない点は、昨年度の評価でも達成出来ていない点であるということも考慮し、早急に改善すべき点である。	3	76	省エネ機器の使用の推奨及び適正な空調温度の設定	3	3	・指標化が出来ていないことによる低評価は理解するが、なぜ指標化ができないのか理解できない。
				77	再生紙その他の資源の有効利用の促進	3	3	
				78	環境に配慮した取組みの指標化及びその公開	2	2	
				79	新たな省エネルギーの実現に向けた取組みの推進	3	3	
				合計		11	11	
20	情報公開の推進	規定等に従い、確実に実施されていると評価する。	3	80	ホームページ等を通じた情報の積極的な公開	3	3	
				81	情報公開請求に対する迅速な対応	3	3	
				合計		6	6	
合計	年度計画どおり順調に実施：60点（3点×20項目）		60	総合計	年度計画どおり順調に実施：243点（3点×81項目）	247	247	

（２）全体評価（年度実績評価）

前年度に引き続きコロナ禍の中での運営となったが、これまでの経験も活かし着実に運営を行ったことで、令和２年度業績評価において業務改善を指摘した10項目のうち9項目の改善が図られた。今年度の取り組みの中では特に、科学館独自の企画展を機構として初めて他都市展開したこと、科学館と自然史博物館による特別展の合同開催、市立美術館と大阪中之島美術館による共同研究や展覧会開催など各館の枠を越えた連携が出来たこと、さらに大阪中之島美術館の開館に向けた取り組みやその結果として想定を上回る来館者を記録した点などが、高く評価できる。

一方で、機構全体の来館者数が目標を下回った点については、オンラインの活用などの積極的な代替措置を講じることが可能であったと考える。また、各館の連携事業などの取り組みが外部へ広く伝わっておらず、来館者やSNSの分析等を行った上で、市民や来館者との対話を意識した、より戦略的な広報を機構として展開することが必要である。併せて、単館の有効な取り組みの他館への共有・展開やICT活用の強化も必要である。

今後も機構としてのマネジメントを発揮し、日々の改善に取り組むとともに、社会情勢の変化や大阪・関西万博の開催などを機敏に捉えた施策を戦略的に展開し、都市のコアとしてのミュージアムの実現に取り組んでいただきたい。